

虚子記念文学館投句特選句

・令和六年九月

稲畑廣太郎 選

鷹柱一万尺の風に消ゆ

大阪 椋本望生

図書室やわが足もとに寄る秋日

新潟 安原 葉

夕風を畳み眠りにつく芒

大阪 杉山千恵子

秋風は風の裏面といふ音色

神奈川 進藤剛至

露草のきらめきに雨晴れてゆく

兵庫 池田文子

螻蛄鳴くや火星の紅き砂嵐

神奈川 平野孤舟

虚子館の風は水色初紅葉

福岡 池末朱実

登高や杖で分け入る獣道

兵庫 前田容宏

九月来て聞き分けてゐる風の音

兵庫 平田 恵

エイがいるゆつくり下へ秋の水

滋賀 太田 慈

（青少年）

入選句・令和六年九月

風少し変はり始めし残暑かな	京都	山崎貴子	五分咲を満開に見せ風の萩	大阪	林 曜子
ひぐらしの音となりゆく旅二日	兵庫	岸川佐江	新涼の山気ケーブル途中より	兵庫	槌橋眞美
花蓼や片づけきれぬ家仕舞	兵庫	山田佳乃	病む犬のもう露草を踏むことも	大阪	北上美佐子
天窓に切り取られたる今日の月	埼玉	小田毬藻	一湾の景秋潮の翳り見ゆ	石川	白根寿子
見かへりの村雨待つてゐる手紙	三重	水越晴子	菜畑の葉先に朝日白露の日	奈良	堀田建夫
きりぎりす人の真中にある凹み	大阪	押見げばげば	鶏頭の固きとさかに触れてみる	奈良	堀田ますみ
蜻蛉を笠に留らせ秋遍路	奈良	堀ノ内和夫	女郎花米騒動はをなごより	大阪	若林友子
迷走の嵐長引く震災忌	京都	西村やすし	お喋りな秋日傘達行く芦屋	神戸	谷本逸歩
一粒の露に命をつなぐもの	大阪	河辺さち子	秋風はすべて挽歌でありにけり	大阪	藤本公子
心とは露けきものぞ又偲ぶ	大阪	須知香代子	蟪蛄や動かぬままの面構	大阪	立入宮子
夫は夫吾は吾の時間夜長の灯	大阪	多田羅紀子	露草や乙女の青き恋心	三重	松村咲子
波音の絶えざる浦の盆踊	大阪	山田佳音	目は確とされど迷ふてゐる台風	奈良	河村久美子
法師蟬のやすらぎの声家木立	兵庫	川村ひろみ	鬼の子のきりきり舞や嵐来る	兵庫	高野さち
虚子館にほつと一息萩盛り	大阪	谷本房子	ハーバードへ今に見てをれ夜学の灯	兵庫	宮本露子
星月夜天変地異は脅威なる	三重	吉川博子	女子アナの必死のロケや台風裡	兵庫	上岡あきら
意志のなき颱風に句座延期なり	三重	中島庸子	独り居に寄り添ふ音色鉦叩	兵庫	金田八江子
アレンパの望み繋ぎて秋暑し	兵庫	森岡喜恵子	風の盆胡弓の三昧の音が泣く	三重	池本準一
十六夜や南海トラフ怖づ地球	兵庫	山之口倫子	椿の実爆ぜる力を溜め育つ	兵庫	日下富貴子
十六夜の闇に飛び込むホームラン	兵庫	勝田展子	箒目のきれいな寺院藤袴	兵庫	高橋純子
川砂の白く洗はれ野分あと	香川	藤田敦雄	これしきの秋暑に負けず句会へと	兵庫	黒田千賀子
月の白太陽の赤曼珠沙華	大阪	奥野千草	太陽に負け露草の閉づ十時	兵庫	玉手のり子
邸しづか夏の終りの雲流る	香川	三好ようこ	枝豆や途切れる会話つなぎつつ	石川	辰巳葉流
縦横に動く京都や秋祭	大阪	室田妙子	母の無き暮しにも慣れ白露かな	兵庫	山口弘子
爽やかな両手のコール登校児	兵庫	北井真有美	声援の声転がりて負力士	兵庫	吉村玲子
汀子師に逢へさう金木犀の香に	大阪	田中靖子	師の遺影昨日けふ会ふホ句の秋	大阪	徳岡美祢子

きら星と交信中や虫すだく	兵庫	小柴智子	金継ぎの筆のしづかや稲光	兵庫	風待ラテ
星生れて露草いろを取り戻す	鳥取	前田 千	風の盆酒注ぐ所作も艶めきて	兵庫	福田光博
ヴォーリズのチャペルのクルス小鳥来る	大阪	ふじもと言果	病室に夫置いて来し夜長かな	兵庫	岩水ひとみ
速報にどきりとしたる震災忌	大阪	西尾浩子	秋彼岸虫の羽音に父母の声	神奈川	小林 心
六斎の獅子の立ちたる闇深し	香川	葛原由起	播り粉木や意気揚々のとろろ汁	愛知	小野 薫
駄菓子屋の賑はふ三時草の花	兵庫	涌羅由美	早口の般若心経秋彼岸	滋賀	近江堇花
過去を捨て悟りは未来秋の蛇	兵庫	河野ひろみ	目を開けぬ祖母へハイビスカスひとつ	静岡	いたまき芯
棲み古りし山家の狭庭秋の蛇	兵庫	中村恵美	名月の映ゆる寺町黒瓦	石川	伊東弥太郎
少しためらひて日傘をさす漢	徳島	奥村 里	無花果は乳房のごとき重みあり	神奈川	斉藤苑子
大楠の幣清めゆく新涼よ	兵庫	足立朱麻	稲刈の先生のゐて自習中	和歌山	中島紀生
あと二点足りぬ追試や秋入日	愛知	海神瑠珂	秋冷や潜水艦のなか見ては	兵庫	西村みどり
花そばやカンパネラの音風に乗り	兵庫	伊藤秀子	俳磚の庭の木洩れ日小鳥来る	兵庫	山内茉莉
日のかげる高原の白蕎麦の花	兵庫	入谷千恵子	朝顔やけふはひときは濃きブルー	兵庫	キートスばんじょうし
さざ波の棚田の光蕎麦の花	兵庫	西尾登志子	天帝の心和らぎ爽やかに	石川	辰巳昌彦
地平線隠してをりぬ蕎麦の花	兵庫	大西美知子	台風来積もる話の家族かな	兵庫	伊集院秀樹
見晴かす紀淡海峡鰯雲	兵庫	三木雅子	墓じまいの話などして夜食とる	兵庫	阿曾宏之
新米の出荷待たるる店の前	京都	杉森大介	苔むしし修験の道を紅葉狩	兵庫	太平楽太郎
台風一過なぎ倒されし弥生杉	京都	星月彩也華	蟻把み乳飲み子唇に吸い込めり	熊本	貴田雄介
仲秋や風の誘ひに散るものも	兵庫	辻田あづき	虫の声遠のく尾灯追ひにけり	兵庫	恵島祥一朗
新紙幣財布に満たし秋日傘	兵庫	岩鼻絹子	犬小屋の奥の和毛や冬隣	奈良	豚々舎休庵
秋天に一刷毛の雲ありにけり	兵庫	奥田好子	願ひ事ひとつに硯洗ひをり	神奈川	金子三奈乃
虚子を追ふ旅終りたる良夜かな	兵庫	藤井啓子	秋うらら屋上で吹くフェラムネ	東京	桜鯛みわ
俳はいつも笑みをり月の海	兵庫	永沢達明			
雲影を映す大琵琶水澄めり	兵庫	柄川武子			
墓石に置かれた石榴おきなおす	滋賀	太田怒忘			
一升瓶一滴ごとの糸瓜水	兵庫	高市敦之			